


ふりがな 氏名	おぐち えいこ 小口 瑛子	都道府県 東京都	
所属/肩書	特定非営利活動法人 開発教育協会		
私のESD活動	友達のこと、世界のことを知って考え行動するきっかけを沢山提供する為開発教育推進 NGO で職員をしています		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

① 携帯回収文化の定着と鋳物紛争問題の啓発

2012年から2015年まで、環境NGOにて「携帯電話に使われている鋳物がアフリカに暮らす人々を傷つけている」という問題に着目し、国内資源の有効活用を求める活動を実施しました。リサイクル企業・回収BOX設置企業との連携、携帯電話会社や行政へ問合せ、環境イベントでの市民への啓発を通じてこの問題を多くの人に知ってもらうことができ、2013年に東京都で小型家電リサイクル法が施行された時、行政・企業・市民が一体となって問題に向き合う重要性を実感しました。

② 開発教育推進 NGO での活動

今年の4月から開発教育協会というNGOで職員として働いており、各種学校への出張授業や授業プログラムの開発をしています。正直なところまだ成果と呼べる成果は出せていませんが、色々なことを自分ごととして捉え、様々な方向から物事を考えられる子どもたちをこれから増やして行きたいし、全国各地で活動されている方々を繋げるプラットフォームとしての組織力を強化していきたいです。

③ 外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援

今現在、外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援のお手伝いをしています。基礎学力の定着はもちろんですが、自分に自信をもって生きていける子どもたちになってほしいと強く思っています。一方で、彼らが小中学校で一緒に過ごしている「マジョリティ」の子どもたちからの辛辣な態度や言葉の話も聞くので、色々な価値観・様々な人がいてこそより良いものが生まれるということを体感できるような時間を他の子どもたちにも届けたいと強く思っています。

○「開発教育協会」 <http://www.dear.or.jp>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

インターネットが普及し「世界との距離」は色々な意味で近くなった一方で、多様性を認め合う姿勢や様々な観点から世界を捉える学び方を学校で育む機会は未だに少ない、という事を前職で学校向け営業をしていて感じました。また日本でもヘイトスピーチが問題になったりと、国内のグローバル化も進む一方で「自分とは違うものを受け入れない」人が増えてきていることに危機感を覚え、今年の4月から開発教育推進 NGO に転職をしました。当 NGO では、学校機関を中心に講師派遣やイベント出展の機会があるので、今回のフォーラムでの学びをワークショッププログラムの中身や実施方法の改善につなげ、世界の問題に興味関心を持ち行動するきっかけを、そして、色々な価値観・様々な人がいてこそより良いものが生まれるということを体感できる時間を、より多くの方々に提供して行きたいと考えています。

また、ESD や開発教育は教育関係者でもまだ全員知っている言葉ではないと思います。推進 NGO として行政・学校機関・NGO 等より多くのセクターを巻き込み、開発教育・国際理解教育を推進して行く体制作りを強めて行くことで、ESD の発展に貢献して行きたいと考えています。